

住民主体による里山の竹伐採活動の継続要因についての研究

九州大学 学生会員 ○河津憲嗣

正会員 樋口明彦

正会員 榎本碧

1. 研究背景および目的

近年、外国からの安価なタケノコの輸入や、プラスチック製品の普及により資材として竹が使用されることが減り、我が国の里山での竹林の管理放棄が問題となっている。繁殖力の強い竹は他の植物の成長を妨げ、その結果生態系を単一化させ、地域特有の風景を変えてしまうといった問題がある。

竹は成長速度が速いため、定期的に継続して伐採活動を行う必要がある。そこで本研究では、長期継続して竹伐採活動を行っている市民団体に着目し、竹伐採を継続的に取り組むための要因について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

研究対象は、山口県・福岡県・佐賀県・大分県において、10年以上住民主体で里山の竹伐採活動を行っている団体とする。

本研究では、予備調査としてインターネットと電話で里山の竹伐採活動を10年以上行っている団体8件を抽出した。インターネットでの調査では、竹林・里

山・市民活動等のキーワードで検索を行った。抽出した8件に対し聞き取り調査を実施した。

聞き取り調査の内容は、会員数、会費、活動目的、活動内容についてである。

本稿では、8件のヒアリングの結果から活動内容として、積極的に地域住民との協働が見られた3団体について抽出し、竹伐採活動の継続要因について比較分析した。かぐや姫の里づくりの会・萩里山応援隊こもれび・かいろう基山の3団体について調査結果および結果の分類を示す。

3. 調査結果

聞き取り調査の結果を表1に示す。

かぐや姫の里づくりの会では、第1・第3土曜日に竹伐採活動を行っている。さらに、伐採した竹を利用して竹細工教室を開催することや、そうめん流し・門松づくりの材料とすることで伐採した竹を利用している。また平成16年からはやまぐちバンブーオーケストラを結成し、伐採した竹で楽器を作り秋に竹林内で演奏会を行い、伐採した竹と竹伐採後の跡地を利用し

団体名		かぐや姫の里づくりの会	萩里山応援隊こもれび	かいろう基山
ヒアリング日		2013年12月1日	2013年12月9日	2013年12月13日
ヒアリング対象者		団体代表	団体代表	団体事務担当
活動場所		山口県下関市王喜地区	山口県萩市田床山	佐賀県三養郡基山町
会員数		10名	13名	53名
会費		無し	年間一人当たり2000円	年間一人当たり2000円
活動目的		荒れた竹林の再生復活と竹の有効活用	田床山の荒れた竹林の伐採	里山再生と地域社会への貢献
活動内容	団体メンバーのみで行う活動	・竹伐採活動 ・鍋会	・竹伐採活動 ・研修旅行 ・竹炭づくり	・竹伐採活動 ・竹伐採跡地への植樹 ・竹細工、竹パウダーづくり
	団体以外の住民と共に行う活動	・竹を伐採した竹林内で竹楽器を用いたコンサート ・門松づくり ・竹細工教室 ・そうめん流し	・門松づくり ・竹垣づくり ・竹燈籠づくり	・竹伐採イベント ・下刈りイベント ・植樹祭 ・育林市民力養成講座

表1 10年以上竹伐採活動を行う団体への聞き取り調査結果

ている。毎年11月には、活動場所で団体メンバーと鍋会を開き、団体メンバーとの交流を行っている。

萩里山応援隊こもればは、田床山の広域基幹林道福萩線の道路沿いの竹を伐採している。伐採した竹は竹炭・竹燈籠・竹垣として活用している。また地域住民と共同で竹垣の製作、門松づくりを行うことでも伐採後の竹の利用を行っている。竹伐採活動を行う日には、午前中に竹伐採活動を行い午後からはわらび取りや花見をするなどの遊びを行い、また毎年11月には団体研修旅行を行うことで、団体メンバーとの交流を行っている。

かいろう基山では、里山再生と地域社会への貢献を目的に活動している。毎週火曜日から土曜日の午前中に竹を伐採し、その跡地を利用して植樹活動を行っている。伐採した竹を竹パウダーや竹細工として活用している。また地域住民との取り組みとして竹伐採・下刈り・植樹活動を合同で行っており、森づくりのリーダー養成を目的とした育林市民力養成講座を開講している。

4. 里山の竹伐採活動の継続要因

3. より活動内容を分類すると、住民主体による里山の竹伐採活動の継続要因は、竹そのものの利用のための伐採活動・竹伐採跡地の利用のための伐採活動、団体メンバー間での交流活動の3点が考えられる。

4-1. 竹そのものの利用のための伐採活動

かぐや姫の里づくりの会では、伐採した竹をそうめん流し・門松・竹細工に使用しており、地域住民と共同で取り組んでいる。萩里山応援隊こもればでは、伐採した竹を萩市内で行われるイベントに用いる竹燈籠として活用することや、地域住民と協同で門松づくりを行っている。かいろう基山では、伐採した竹を竹パウダーに加工することや竹細工の材料として活用している。いずれの団体も、伐採後の竹を廃棄するのではなく、資源として活用している。このことから、竹そのものを利用するための伐採活動が活動の継続につながっていると考えられる。

4-2. 竹伐採跡地の利用のための伐採活動

かぐや姫の里づくりの会では、竹伐採跡地をタケノコ堀りを行う空間として活用しており、将来的には介護施設で暮らす住民の癒しの場とするという展望がある。かいろう基山では、竹伐採跡地をクス・シイ・ヤ



写真1 地域住民と共働で行う竹垣づくり

(写真：萩里山応援隊こもればより提供)

マモモ・ヤマザクラを植樹する空間として活用しており、毎年2月に地域住民と合同で植樹祭を行っている。かぐや姫の里づくりの会とかいろう基山では竹伐採跡地の使用目的がある。このように、竹伐採跡地の利用のための竹伐採が活動の継続要因になっていると考えられる。

4-3. 竹伐採活動に関連した団体メンバー間での交流活動の活発さ

かぐや姫の里づくりの会では、団体メンバー間での交流活動として11月に竹伐採活動後に活動場所にて鍋を食べる行事を行っている。萩里山応援隊こもればでは、団体メンバー間での交流活動として竹伐採活動を終えた後に、わらび取りや花見会を行っており、また年に1度環境学習を目的に研修旅行を行っている。これらの団体では、竹伐採活動の他に団体内での交流がある。このことから、団体メンバー間の交流活動が活動の継続要因になっていると考えられる。

以上より、伐採した竹の使用目的を有する点・竹伐採後の跡地の使用目的がある点・団体内または地域住民との交流がある点、3点が竹伐採活動の継続要因になっていると考えられる。

5. まとめ

本研究では、住民主体による里山の竹伐採活動の継続要因3点を明らかにした。竹や竹林跡地に価値を見出し、活動を共に行うメンバーとの雰囲気作りが竹伐採活動を継続させるのではないかと考える(写真1)。

謝辞

ヒアリングにお邪魔させていただいた団体の方に、この場で感謝の意を示します。